

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	

企業の概要

企業・団体名	シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社	本社所在地	東京都
業種	情報通信業	総従業員数	171名
事業概要	仮想デスクトップ基盤（VDI）と負荷分散装置やSD-WANなどのネットワーク製品を中心に、企業の生産性や俊敏性の向上を支援するデジタルワークスペースの開発・販売		

テレワーク実施概要

雇用上の規定	テレワーク規程
テレワーク担当部署	人事部
テレワーク対象者	全員／全職種
実施者数	171名
平均実施日数	月16回以上（概ね週4回以上）

テレワークの導入・拡大の経緯

- シトリックスでは、自社のソリューションなどを活用し、2000年代から従業員のエクスペリエンスを優先に考えるテレワークを導入してきた。
- 新型コロナウイルス感染拡大の対応策として、2020年3月より、「全従業員が原則毎日在宅勤務」体制に切り替えてから1年半が経つ。
- 新型コロナウイルスが「フル在宅勤務」へ拡大するきっかけとなったが、生産性・効率性向上、通勤時間・移動時間削減、ワーク・ライフバランスの向上、ライフイベントとの両立、優秀な従業員の採用、BCP対応という目的を掲げている。

テレワークの概要・特徴

- 「社員の安全・健全」と「従業員による働き方の選択」という基本姿勢のもと、緊急事態宣言中は「フル在宅勤務」、緊急事態宣言が解かれた際には、ソーシャルディスタンスを配慮したシフト出社可能体制への切り替えて各従業員が在宅か出社かを選べる仕組みを築いた。
- コロナ鎮静を見据えて、各社員が、各自の役割や状況に応じて最も生産性がある環境を選べるガイドラインを準備した。
- 「ハイブリッド」といった働き方を展開すると同時に、チームワークに支障がないように、こうした働き方について、マネージャーと社員、チーム間で話し合うことを促進している。

テレワーク導入の効果（経営にもたらした効果、その他効果）

- フルテレワーク約1年後のエンゲージメントサーベイ（2021年4月）では、物理的距離があっても、8割以上の従業員が、帰属意識と情報共有に関して肯定的に捉えている。
 - ・ チームの一員だと感じる【84%】
 - ・ 成功するためにすべきことを理解している【87%】
 - ・ 上司は、社内ですべて起きていることを常に情報共有している【81%】
- 働きがいのある会社調査（2021年6月）では、「管理者層は、私をただのワーカーとしてではなく、ひとりの人間として、誠実な対応を示してくれる」という項目に関して、8割以上の社員（81%）が肯定的に捉えている。テレワークでワークとライフの境界線があいまいな環境を背景にした効果と言える。
- テレワークの導入により、ボランティア活動をすべてオンラインに切り替え実施した。これにより、実施頻度と種類の幅が増え、社会的貢献を大切にするエンプロイヤーブランディングにより影響を与えた。
 - <https://www.facebook.com/CitrixJapan/posts/4038453602897892>
 - <https://www.linkedin.com/feed/update/urn:li:activity:6756941828727152640/>
 - <https://www.linkedin.com/pulse/virtual-volunteering-how-citrix-contributed-through-mako-kosuge/>
 - <https://www.citrix.com/ja-jp/news/announcements/aug-2021/citrix-certified-great-place-to-work-jp.html>